

CASBEE®新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.1

1. 建物概要

建物名称 建設地 用途地域 建物用途 竣工年 敷地面積 建築面積 延床面積 階数 構造 評価の段階 評価の実施日	株式会社WELCON矢代田工場新築工事 新潟県新潟市秋葉区矢代田地内 指定なし 工場, 2018年9月 予定 44,030.40 m ² 2,102.50 m ² 2,030.00 m ² 地上1F S造 実施設計段階評価 2018年5月15日	<p>東側立面図</p>
---	--	--------------

2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{50.0}{49.2} = 1.0$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価アイコン	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	3.2		バリアフリー計画	1.0
			維持管理	5.0
			設備の更新性	3.6
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	2.8		耐震・免震・制震・制振	3.0
			信頼性	2.6
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.0		建物外皮の熱負荷抑制	-
			自然エネルギー利用	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.3		節水	4.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	4.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	3.0		生物環境の保全と創出	3.0
			敷地内温熱環境の向上	3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	2.5		まちなみ・景観への配慮	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	2.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

計画建物は工場であり、評価や配慮するポイントが限られたが長寿命化の取組み、資源循環の取組みに配慮し計画する。
 長寿命化の取組みでは、清掃等メンテナンスがしやすい材料の選定や空調配管や、電気配線等を露出配管とすることで維持管理に配慮した計画とし、資源循環の取組みでは節水型器具の採用やリサイクル仕上材を使用する計画とする。

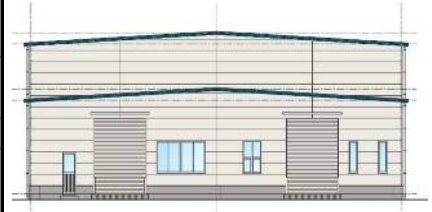
■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

CASBEE[®]新潟

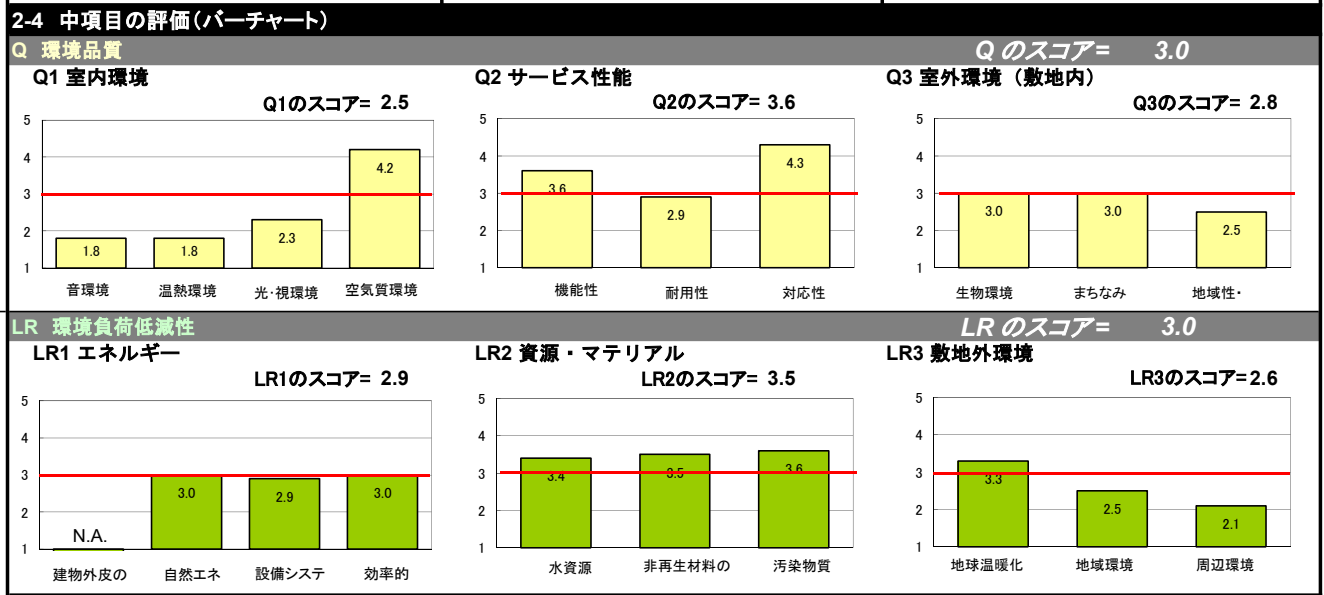
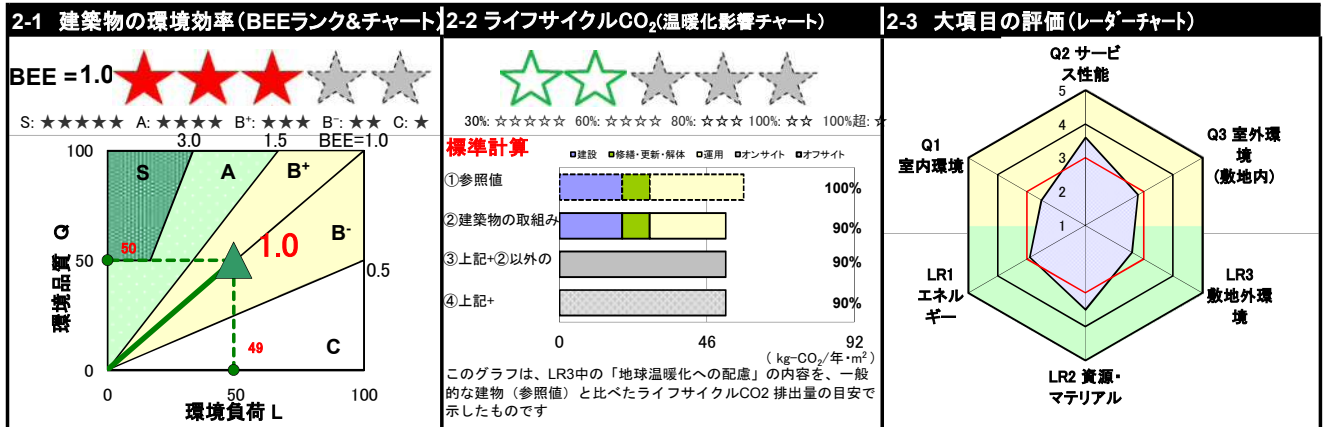
評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.1

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社WELCON矢代田工場新築工事	階数	地上1F
建設地	新潟県新潟市秋葉区矢代田地内	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	10人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,000時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年9月 予定	評価の実施日	2018年5月15日
敷地面積	44,030 m ²	作成者	松原 巖
建築面積	2,103 m ²	確認日	2018年5月15日
延床面積	2,030 m ²	確認者	松原 巖



東側立面図



3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>計画建物は工場であり、評価や配慮するポイントに限られたが、長寿命化・資源循環の取組みに配慮し計画する。清掃等メンテナンスがしやすい材料の選定や空調配管や、電気配線等を露出配管とし、節水型器具の採用やリサイクル仕上材を使用する計画とする。</p>		<p>その他</p> <p>0</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>化学汚染物質を発生しない材料を使用し、建物内禁煙とすることでより良い室内環境となるように計画する。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>十分な広さの執務・作業スペースを計画する。(100m²/1人当り) また、天井も高しリフレッシュスペースも確保することでサービス性能が向上するように計画する。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>敷地周囲の森林や既存樹木を活かし、多くの緑に囲まれたより良い室外環境になるように計画する。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>運用管理の組織、体制、方針を計画し責任者を選定する。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>節水型器具の採用やリサイクル仕上材を使用する計画とする。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される